

魚津市荒町
小浜印刷所

昭和三十年度予算案等が審議
会期は三月十二日から二十五日まで

(明治天皇行在所)

三時頃行在所と定められた魚津角川町四十三番地の寺崎と一郎方にお入りになりました。

先に当家が行在所と指定されると、宮内庁の指揮の下に、明治十一年五月一日地鎮祭が行われ、そして六月十五日には大體工事が竣工しました。七月十日に内務少輔宮林友幸氏の下見開があらまされて、かなり模様替を命ぜられていたから、夜を日について工事を進め、九月七日には全く完成致しました。

行在所の建坪は約五十八坪で、御座所の外に十畳の

中央玉座の卓及び椅子には金色燦爛としている覆がかけられ、庭園の老松の間に雌雄の鶴と亀とが配置されていて、一層の雅致を添えています。門の入口には長さ三尺五寸の厚板に筆太く「行在所」と書いた建札が建てられました。

九月二十九日早朝、泊町の行在所を進発された「ろぼ」は、沿道すきもない拝観者の中を入替、三日市と通過され、午後三時、魚津町に龍顔麗しく着輦あそばされました。

